

がん診療推進センター/腫瘍病態治療学

1. 領域構成教職員・在職期間

センター長・准教授	廣野 靖夫	2019年4月～
副センター長・助教	根来 英樹	2017年4月～
特命助教	児玉 麻衣子	2018年4月～
特命助教	樺 貴佳	2019年4月～
医員	李 心	2019年4月～

2. 研究概要

研究概要

【がん診療推進センター】

センターは、通院治療センター、緩和ケアチーム、がん相談部門、がん診療統計部門、がん治療標準化部門、がん診療連携部門、がん患者会支援部門、等からなっている。これに加えて臨床栄養学、NST活動もやっている。また、2018年秋には、がんゲノム外来を設立した。臨床研究としては、がんの集学的治療の研究と実践、特に腹膜転移に対する腹腔内温熱化学療法HIPECの新しい手技や基礎研究、悪性腹水に対する腹水濾過濃縮再静注法(CART)の研究、腹膜播種陽性胃癌に対する、腹腔内化学療法と全身化学療法、外科治療を組み合わせた集学的治療法の開発研究は臨床成績も良好であり、ユニークな研究である。そのほか、チーム医療として、地域におけるがん在宅医療の教育研究、緩和ケアセンターを新設し、緩和医療における栄養管理の重要性についての臨床研究、通院治療センターにおける栄養管理と化学療法による副作用の関係を研究している。通院治療センターにて在宅化学療法を受けている患者の栄養状態評価と管理を積極的に行い、栄養管理による治療成績の改善を目的として臨床研究を行っている。県内で唯一のリンパ浮腫外来を設置し、院内外からの患者さんの治療に当たっている。

【腫瘍病態治療学講座】

腫瘍病態治療学講座では、北陸がんプロの事業の一環として、

1. 学内外の医師に対する大学院レベルのがん診療教育を行う。
2. 県内の医療者に対する専門的がん診療の講習を行う。
3. 北信がんプロ遠隔会議システムを用いて北陸・信州の6大学(福井大学、金沢大学、富山大学、金沢医科大学、石川看護大学、信州大学)と北陸信州4県のがん連携拠点病院を結んで症例検討会、オンコロジーセミナーを開催している。
4. 一般市民や患者会会員を対象とした県民がんシンポジウムを年1回開催、また、県内の看護師を対象とする看護研究会を年1回行っている。
5. 福井大学医学部附属病院の専任医師をおき、緩和ケアチームを牽引している。
6. 福井県緩和医療研究会、北陸緩和医療研究会の事務局として研究会、総会の運営に当たっている。

キーワード

集学的がん治療、腹腔内化学療法、緩和ケア、臨床栄養、CART、在宅緩和バス、ゲノム医療、緩和医療教育、在宅栄養、がん専門教育、北信がんプロ

特色等

【がん診療推進センター】

がんの治療、特に腹腔内化学療法を駆使した集学的治療により、非常に予後不良な胃癌腹膜転移にも積極的な治療を行っている。癌性腹水に対してもCARTによる積極的緩和治療を行ってきた。通院による癌治療と在宅緩和ケアを積極的に展開している。緩和ケア科を新設、緩和ケア外来を毎日開いている。専任医師は在宅移行を専門とする。また、緩和ケアセンターとして、緩和ケア専用病床4床を運営しており、看取りだけではなく在宅移行へのステップとしても活用している。通院治療センターにおける患者の栄養評価と管理による治療成績改善の試みを行っている。リンパ浮腫外来は増える需要に対して外来日を週2日に増やし、院外からの症例も増加している。がん患者会を支援、また、患者サロンを設置し、運営している。在宅緩和ケアバスを普及するべく活動を行っている。本学中心に県内で運用する在宅緩和バスは、福井県がん診療連携協議会で承認されたが、富山県のがん診療連携協議会でも採用され、また、石川県でも採用の方向であり、北陸地域のバスとして臨床研究も進んでいる。また、各診療科、部門を超えてカンファレンスを行うがんセンターは、センターが診療科の求めに応じて開催しているが、その頻度が増加し、大学院のボードとして必須の存在である。がんゲノム医療中核拠点病院である京都大学と提携し、連携病院としてがんゲノム外来ならびにエキスパートパネルを運用している。

【腫瘍病態治療学講座】

1. 北信がんプロのE-Learningのコンテンツを多く作成し、提供し、このシステムを用いた大学院レベルのがん診療教育を行っている。
2. 北信がんプロのE-Learningシステム、インテンシブコースのコンテンツを数多く作成し、提供し、これらを用いた県内の医療者を多く募集し、専門的がん診療の講習を進めている。
3. 北信がんプロの6大学とがん連携拠点病院を結んだ症例検討会と、オンコロジーセミナーは、極めてレベルの高い専門医研修となっている。年1回の県民がんシンポジウムは、本学の最新のがん治療の周知の場として有用であり、県民から高い評価を受けている。また、その発表のあらまは福井新聞の紙面1頁を用いて県民に報告しており、県民のがんに対する知識向上に益している。
4. 本学病院の専任医師として、緩和ケアチームを牽引し、レベルの高い緩和ケアチームとして県内他の施設の研修も行っている。
5. 福井県緩和医療研究会、北陸緩和医療研究会の事務局として福井県だけではなく北陸地方の緩和ケアの中心であるべく活動を続けている。

本学の理念との関係

【がん診療推進センター】

本学の理念である、医の倫理の体得、信頼し得る医療人の教育、地域医療の向上の三つの柱に沿うべく、在宅緩和医療、在宅栄養療法に関わる医師、メディカルスタッフの教育に尽力している。緩和ケア研修会、フォローアップ研修会を毎年開催。福井県における緩和ケア研修会5回の開催計画を作成し開催に当たったの援助指導を行っている。本学中心に県内で運用する在宅緩和バスは、福井県のがん診療連携協議会で承認され、県のがんバスとして運用しているが、富山県のがん診療連携協議会でも採用され、また、石川県でも多くの施設で採用されている。北陸地域でのバスとしての他施設共同研究も進んでいる。診療科、部門を超えてカンファレンスを行うがんセンターやがん遺伝子パネル検査におけるエキスパートパネルでは、学外の施設からも参加を得て数多く開催されている。また、がん性腹膜炎に対する有効な治療である腹腔内化学療法やCARTが県内および国内で普及するための活動を行っている。

【腫瘍病態治療学講座】

本学の理念や使命に沿って、医の倫理の体得、信頼し得る医療人の教育、地域医療の向上の三つの柱に沿うべく、がん診療の医師、スタッフに対する専門教育に尽力している。福井県のみならず、北陸信州地域の緩和ケア研修の中心的な役割を果たしている。

3. 研究実績

区分	編数		インパクトファクター(うち原著のみ)	
	2019年分		2019年分	
和文原著論文	0		—	
	ファーストオーサー	2	6.162 (6.162)	
英文論文	コレスポンディングオーサー	2	6.162 (6.162)	
	その他	0	0 (0)	
	合計	2	6.162 (6.162)	

(A) 著書・論文等

(1) 英文：著書等

a. 著書

b. 著書(分担執筆)

c. 編集・編集・監修

(2) 英文：論文等

a. 原著論文(審査有)

1954001

Shin Lee, Eiju Negoro, Hisashi Oki, Yoshiaki Imamura, Takahiro Yamauchi: Simultaneous Presentation of Lymphomatoid Granulomatosis and Multiple myeloma in an Immunodeficient Patient with Rheumatoid Arthritis., Intern Med., 58(19), 2845-2849, 20191001, DOI: 10.2169/internalmedicine.2811-19, #0.956

1954002

Lee S, Fujita K, Negoro E, Morishita T, Yamauchi H, Oiwa K, Ueda T, Yamauchi T.: The impact of diagnostic wait time on the survival of patients with diffuse large B-cell lymphoma: effect modification by the International Prognostic Index., Br J Haematol, 187(2), 195-205, 201910, DOI: 10.1111/bjh.16078, #5.206

b. 原著論文(審査無)

c. 原著論文(総説)

- d. その他研究等実績（報告書を含む）
- e. 国際会議論文
- 1954003** Shin Lee, MD, Negoro Eiju, Morishita Tetsuji, MD, PhD., Kei Fujita, MD, Hideaki Yamauchi, MD, Kana Oiwa, MD, Takanori Ueda, MD, PhD5 and Takahiro Yamauchi, MD, PhD: The effect of diagnostic wait time on the survival of patients with diffuse large B-cell lymphoma differs depending on International Prognostic Index., 61st American Society of Hematology Annual Meeting and Exposition, 2019
- 1954004** Yasuo Hirono, Kanji Katayama, Takayuki Naruse, Takanori Goi: Clinical Impact Of Preoperative Serum Cholinesterase In Gastric Cancer, Clinical Nutrition, 38, S256-S256, 2019
- (3) 和文：著書等
- a. 著書
- b. 著書（分担執筆）
- c. 編集・編集・監修
- (4) 和文：論文等
- a. 原著論文（審査有）
- b. 原著論文（審査無）
- c. 総説
- d. その他研究等実績（報告書を含む）
- e. 国際会議論文
- (B) 学会発表等
- (1) 国際学会
- a. 招待・特別講演等
- b. シンポジスト・パネリスト等
- c. 一般講演（口演）
- d. 一般講演（ポスター）
- 1954005** Shin Lee, MD, Negoro Eiju, Morishita Tetsuji, MD, PhD., Kei Fujita, MD, Hideaki Yamauchi, MD, Kana Oiwa, MD, Takanori Ueda, MD, PhD5 and Takahiro Yamauchi, MD, PhD: The effect of diagnostic wait time on the survival of patients with diffuse large B-cell lymphoma differs depending on International Prognostic Index., 61st American Society of Hematology Annual Meeting and Exposition, Orlando(USA), 20191208, 201912
- 1954006** Yasuo Hirono, Kanji Katayama, Takayuki Naruse, Takanori Goi: Clinical Impact Of Preoperative Serum Cholinesterase In Gastric Cancer, 41st ESPEN Congress on clinical Nutrition & Metabolism, Krakow(Poland), 20190831, Final Programme
- e. 一般講演
- f. その他
- (2) 国内学会（全国レベル）
- a. 招待・特別講演等
- 1954007** 廣野靖夫, 成瀬貴之, 呉林秀崇, 横井繁周, 片山外大, 玉木雅人, 森川充洋, 小練研司, 村上 真, 前田浩幸, 片山寛次, 五井孝憲: 腹腔内化学療法と3剤併用療法にて根治切除が可能となり、長期生存している腹膜播種陽性胃癌症例, 第81回日本臨床外科学会総会, 長期予後が得られた症例1（上部消化管）, 高知, 20191114, 抄録集
- b. シンポジスト・パネリスト等
- 1954008** 石神浩徳, 小寺泰弘, 今野元博, 福島亮治, 藪崎 裕, 大森 健, 門脇重憲, 富田寿彦, 有上貴明, 秀村晃生, 廣野靖夫, 辻 靖, 天貝賢二, 山口博紀, 北山文二: 腹膜播種陽性胃癌に対する腹腔内化学療法 - 腹腔内化学療法研究会の臨床試験より -, 第57回日本癌治療学会学術集会, 臓器別シンポジウム 10 胃癌 Up to Date, 福岡, 20191024, オンライン (jsco2019)
- 1954009** 廣野靖夫, 成瀬貴之, 呉林秀崇, 横井繁周, 玉木雅人, 森川充洋, : 胃癌腹膜転移に対するタキサン腹腔内投与を使い切る治療戦略, 第74回日本消化器外科学会総会, 胃癌腹膜播種に対する治療戦略, 東京, 20190717, オンライン
- 1954010** 児玉麻衣子, 松村由紀子, 廣野靖夫, 小林美貴, 高野智早, 浦井真友美, 栗原希恵, 片山寛次, 宮武寛知, 紅谷浩之: 病院と地域で取り組む地域緩和ケア質向上のための取り組み～在宅緩和ケア地域連携バス、在宅緩和ケア推進会議を中心～, 第1回日本在宅医療連合学会大会, 地域緩和ケアネットワークの現状と課題, 東京, 20190714, フログラム・講演抄録集, 216, 20190714
- 1954011** 廣野靖夫, 成瀬貴之, 呉林秀崇, 片山外大, 横井繁周, 藤本大裕, 玉木雅人, 森川充洋, 小練研司, 村上 真, 前田浩幸, 片山寛次, 五井孝憲: 当科における切除可能胃癌に対する胃癌術前化学療法の検討, 第44回日本外科系連合学会学術集会, 術前化学療法の意義, 金沢, 20190619, 日外科系連合誌, 44((3)), 563, 201905
- 1954012** 會澤雅樹, 今野元博, 藪崎 裕, 伊藤誠二, 上之園芳一, 廣野靖夫, 上田修吾, 松村卓樹, 千葉康敬, 千葉佐知, 松木 淳, 有上貴明, 伊藤友一, 藤本大裕, 石神浩徳, 山口博紀, 安田卓司, 北山文二, 古河 洋: 根治切除可能な漿膜浸潤陽性胃癌に対する腹腔内投与併用の周術期化学療法を検証する第II 相試験 (GAPS 試験), 第119回日本外科学会定期学術集会, 胃癌における周術期化学療法の最先端, 大阪,
- c. 一般講演（口演）
- 1954013** 廣野靖夫, 成瀬貴之, 呉林秀崇, 片山外大, 横井繁周, 澤井利次, 玉木雅人, 森川充洋, 小練研司, 村上 真, 前田浩幸, 片山寛次, 五井孝憲: 胃癌手術における術前コリンエステラーゼ値の意義について, 第57回日本癌治療学会学術集会, 胃癌 臨床1, 福岡, 20191024, オンライン (jsco2019)
- 1954014** 廣野靖夫, 片山寛次, 成瀬貴之, 片山外大, 呉林秀崇, 横井繁周, 玉木雅人, 森川充洋, 小練研司, 村上 真, 五井孝憲: 胃癌外科治療における術前コリンエステラーゼ値の有用性について, 日本外科代謝栄養学会第56回学術集会, 栄養マーカー, 神戸, 20190704, 外科と代謝栄養, 53((3)), 201906
- d. 一般講演（ポスター）
- 1954015** 根来 英樹, 五十嵐 敏明, 大蔵 美幸, 位田 奈緒子, 李 心, 大岩 加奈, 藤田 慧, 松田 安史, 田居 克規, 岸 慎治, 浦崎 芳正, 細野 奈穂子, 上田 孝典, 山内 高弘: 低悪性度B細胞リンパ腫に対し高容量のイブリツモマブチウキセタンが治療効果を示す, 第81回日本血液学会学術集会, 低悪性度リンパ腫: 治療 (2), 東京, 20191011, オンラインPW: JSH2019, 201910
- 1954016** 根来 英樹, 大蔵 美幸, 位田 奈緒子, 李 心, 大岩 加奈, 藤田 慧, 松田 安史, 田居 克規, 細野 奈穂子, 上田 孝典, 山内 高弘: Clinical outcome of carfilzomib for relapsed multiple myeloma. A single institution experience, 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会, 症例報告(血液), 京都, 20190718, オンラインPW: JSMO2019, 201907
- 1954017** 李心, 根来英樹, 塚崎光, 山内高弘, 上田孝典: 高齢者非ホジキンリンパ腫において、治療強度の維持は予後を改善させるか?, 第116回日本内科学会総会, 名古屋, 20190426, 201904

業績一覧

1954018 児玉麻衣子, 小林美貴, 松村由紀子, 廣野靖夫, 高野智早, 浦井真友美, 栗原希恵, 片山寛次, 田辺公一, 森田達也: 北陸三件合同在宅緩和ケア地域連携バス有用性に関する研究, 第24回日本緩和医療学会学術大会, 北陸三件合同在宅緩和ケア地域連携バス有用性に関する研究, 横浜, 20190621, オンライン(24thjspmkyokohama), 分野5

1954019 児玉麻衣子, 小林美貴, 松村由紀子, 廣野靖夫, 高野智早, 浦井真友美, 栗原希恵, 片山寛次, 紅谷浩之: 緩和ケア外来通院中から継続して意思決定支援を行い、最終的に患者家族の希望する自宅看取りを行えた二事例, 第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 症例報告(在宅②、緩和ケア), 京都, 20190517, オンライン(woncajpca2019), 201905

e. 一般講演

1954020 李 心, 根来 英樹, 藤田 慧, 上田 孝典, 山内 高弘: CHOP/THP-COP療法の高齢者DLBCLの予後に与える影響, 第81回日本血液学会学術集会, 高齢者DLBCL, 東京, 20191011, オンラインPW: JSH2019, 201910

f. その他

(3) 国内学会 (地方レベル)

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演 (口演)

d. 一般講演 (ポスター)

e. 一般講演

f. その他

1954021 廣野靖夫: 胃癌治療の現状～手術から化学療法まで～, 日本消化器病学会北陸支部 第41回教育後援会 第128回支部例会 第17回専門医セミナー, 富山, 20190609, 抄録集, 4, 201906

(4) その他の研究会・集会

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演 (口演)

1954022 高野智早, 児玉麻衣子, 小林美貴, 松村由紀子, 栗原希恵, 浦井真友美, 三嶋一輝, 上谷幸男, 松嶋あづさ, 松尾英明, 高山マミ, 北山富士子, 早瀬美香, 中田奈都子, 片山寛次, 廣野靖夫: 福井県緩和ケアチーム研修会参加を通して見えてきた当院緩和ケアチームの課題と改善にむけた取り組み, 第31回福井県緩和医療研究会, 福井, 20190413, 201904

1954023 児玉麻衣子, 椿 貴佳, 松村由紀子, 水野智之, 小林美貴, 高野智早, 浦井真友美, 栗原希恵, 上谷幸男, 廣野靖夫, 片山寛次: 進行がん、低カルシウム血症を発生し精神症状と鑑別困難であった二事例, 第31回福井県緩和医療研究会, 福井, 20190413, (-), 201904

d. 一般講演 (ポスター)

e. 一般講演

f. その他

1954024 児玉麻衣子, 村上望, 田辺公一, 宮原美恵子, 紅谷浩之, 宮永太門, 小林美貴, 浦井真友美, 片山寛次, 廣野靖夫, 森田達也: 第5回北陸緩和医療研究会臨床研究懇話会, 北陸三県合同在宅緩和ケア地域連携バス有用性に関する研究, 石川, 20190907, 抄録集, 201909

(C) 特許等

区分	内容 (発明の名称)	発明者又は考案者
----	------------	----------

(D) その他業績

4. グラント取得

(A) 科研費・研究助成金等

区分	プロジェクト名	研究課題名	代表者名	分担者名	期間 (年度)	金額 (配分額)
----	---------	-------	------	------	---------	----------

区分	研究種目	課題名	代表者名	分担者名	期間 (年度)	金額 (配分額)
----	------	-----	------	------	---------	----------

(B) 奨学金附金

受入件数	4
受入金額	900000

5. その他の研究関連活動

(A) 学会開催等

区分	主催・共催の別	学会名	開催日	開催地
----	---------	-----	-----	-----

(B) 学会の実績

学会の名称	役職	氏名
-------	----	----

(C) 座長

国内学会	学会名	氏名
------	-----	----

(D) 学術雑誌等の編集

学術雑誌等の名称	委員長 (主査)・委員	氏名
----------	-------------	----

(E) その他